

人材拔擢

政府であれ政党であれ、さらには企業であれ団体であれ、現代ほど精緻に整備された組織になつてしまふと、優秀な人材は多くいるはずなのに、彼らが「拔擢」を通じて頭角を現すことが難しくなつているのであらう。特に台湾有事や大規模自然災害などの緊急事態が発生した場合、優れた人材を次々と抜擢して任に当たらせるメカニズムを用意しておくことが必要なのではないかと思う。

第四代台湾総督の児玉源太郎、児玉に同道して民政長官の任についた後藤新平の真骨頂の一つは、台湾開発に熱い心と高い志をもつ若い人材の発掘であつた。台湾開発の三大事業は、南北縦貫鉄道、土地調査事業、基隆築港であつた。児玉と後藤はそれぞれ長谷川謹介、中村是公、長尾半平を選んで全権限を与えた。児玉、後藤は後方から彼らを鼓舞するだけだつた。

中村は第一高等学校を経て東京帝国大学法科大学を卒業後、大蔵省入省、秋田県収税長として二年勤務したところで、大蔵次官に認められて台湾に赴

渡辺利夫 (公益財団法人オイス力会長)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学・東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任(二〇一〇年十二月、退任)。二〇一七年六月より現職。

任、この地の乱脈な土地所有関係の整備に当たり、地租を中心とする総督府の徴税基盤を整えることに成功した。八百余人の総督府役人を数十班に編成、三角測量機をもたせて全島に派遣した。地方官僚や現地住民を含めると調査事業に当たった人々の数は延べ一四七万人であつたと記録されている。中村はこの規模の組織の指揮を委ねられたのである。

基隆築港のために拔擢された港湾技師が三十年代半ばの長尾半平である。東京帝国大学土木工学科を卒業後、山形県、埼玉県の土木課長職にあつた。その豊かな構想力が定評を得て、後藤がこれに惚れ込んで長尾を台湾に招き、築港のすべての権限を与えた。長尾はこれまでの知見と欧米の最新知識・技術をみずから習得してこの事業に臨んだ。

諸事業完遂のための人材拔擢、拔擢された人間への全幅の信頼、信頼に応える官僚や技術者の児玉、後藤への献身、これが台湾開発成功の真因の一つだつたのではないか。「人を残して死ぬのは上だ」というのが後藤の信条であつた。